

BCG個別接種開始 Q & A 【保護者向け】

個別接種開始について		
	問	回答
1	どこで接種できますか？	令和5年4月1日より個別接種へ完全移行したため、東大阪市内の委託医療機関で接種可能です。医療機関へ予約のうえ接種して下さい。委託医療機関一覧は東大阪市のウェブサイトへ掲載しています。
2	どこのクリニック・病院がよいか教えてください。	委託医療機関は東大阪市の研修会を受講し、接種技術を習得しておりますので差異はありません。また、使用するワクチンは、いずれの委託医療機関も乾燥BCGワクチンであり、違いはありませんので、日時・場所等のご都合に合わせて委託医療機関一覧よりお選びください。
3	かかりつけ医が委託医療機関一覧にないのですがどうすればよいですか？	委託医療機関一覧より別の医療機関をお選びいただき、ご予約ください。
4	BCG予防接種の予診票はどうすればいいのか？	委託医療機関に備えてありますので直接お問い合わせください。
BCGワクチンについて		
	問	回答
5	BCGワクチンの効果は？	BCGは結核を予防するために接種するワクチンです。乳幼児期に接種することにより、結核の発症を52～74%程度、重篤な髄膜炎や全身性の結核に関しては64～78%程度予防することができるといわれています。接種後約1か月後には免疫ができ、その効果は、10～15年程度続くと考えられています。
定期接種の対象者について		
6	定期接種の対象者は？	生後1歳に達するまで（1歳の誕生日の前日まで）が定期接種の対象です。標準的な接種期間は、生後5か月から8か月に達するまでです。
7	結核の治療を行った児は定期接種の対象となりますか？	結核にすでに感染していることが分かっている場合には定期接種の対象になりません。詳しくは、感染診断をした主治医へお問い合わせいただくか、感染症対策課（072-960-3805）までご連絡をお願いします。
8	ステロイド外用剤を塗布しているのですが影響はありますか？	ステロイド外用剤はワクチンの効果を失わせるため、BCG接種部位（両上腕外側部）への使用は当日は避ける必要があります。BCG接種のためのステロイド外用剤の中止期間は、処方医へお問い合わせください。
9	アトピー性皮膚炎に罹患している小児へのBCG接種はできますか？	BCGワクチンの接種部位がジクジクしている状態の場合は、皮膚の状態が改善するまで接種はお控えください。また、大量あるいは長期間（2週間以上）使用した時には薬剤の中止後6か月程度経過したのちに接種ください。ただし、ステロイド外用剤の局所的な使用、吸入薬、点眼薬、点鼻薬の場合は全身的な免疫に影響を与えていなければ接種可能です。接種予約の際に医療機関へご相談ください。接種可能かどうかは当日の診察時に判断します。
10	他のワクチンと同時接種・同日接種はできますか？	医師が必要と認めた場合には同時接種を行うことができます。BCGワクチンは生ワクチンであるため、他の注射生ワクチンを接種する場合には27日以上の間隔をあける必要があります。経口生ワクチン・不活化ワクチンは同時接種は可能ですが、接種医師の判断によります。詳しくは予防接種手帳をご確認ください。

接種の実際に関すること

11	接種にあたり注意することは？	<p>【接種前】必要性や副反応について予防接種手帳やワクチンの接種説明書を確認してください。受ける前日は入浴（シャワー）をさせ身体を清潔にしてください。</p> <p>【接種当日】体温を測り、朝から子どもの様子を観察し、普段と変わったようすが無いことを確認してください。着衣は清潔なもので、着脱しやすいものにしてください。子どもの日頃の様子を知っている保護者が同伴ください。保護者の方で髪が長い場合は、ゴムなどでまとめてお子様の接種部位に髪が触れないようにご注意ください。</p> <p>【接種後】接種部位が自然に乾くまで10～15分程度待ってから服を着せるようにします。接種部位をあおぐことなく自然乾燥で、手や服が接種部位に触れることが無いように注意し、出血を拭き取ったり、もんだりしないようにしてください。</p>
12	接種部位から出血している場合は？	<p>針痕部位周辺に付着している懸濁液は自然乾燥する必要があるしますので、周辺の血液も拭き取ることなく、自然乾燥をさせてください。</p>
13	接種部位の変更をしたいのですができますか？	<p>BCGワクチンは、上腕外側のほぼ中央部に接種するものとされており、その他の場所への接種は、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」上認められていません。また、肩の部分に接種を行うとケロイドを生じやすいことが報告されています。</p>
14	BCGワクチンの副作用は？	<p>リンパ節の腫れや局所・全身の皮膚症状などの比較的軽度な局所反応は一定の頻度で見られますが、自然軽快することが多いです。稀に骨炎や全身性のBCG感染症、アナフィラキシーなどの報告があります。重大な副作用については専門医による診断治療が必要です。気になる症状が見られた場合には、接種された医療機関へご相談ください。</p>
15	コッホ現象とは？	<p>BCGワクチンは、通常接種から2週間程度経過すると、針の痕に一致して発赤や硬結が生じ、その後化膿して痂痂（かひ）化します。結核に感染している人にBCGワクチンを接種した場合、このような症状が接種後1週間以内（多くは3日以内）に見られることがあり「コッホ現象」とよびます。コッホ現象を強く疑う場合には、接種から遅くとも2週間以内（1週間以内が望ましい）にツベルクリン反応検査を実施し、感染の有無を調べる必要があります。コッホ現象を疑われる場合には、接種医療機関へご連絡をお願いします。</p>